

生きた発言、実現しよう！

<仲間づくりは運動の維持発展にとって不可欠>

●百里基地がある小美玉市に平和委員会の組織がないので準備を進めている。5月24日に7人が集まりひとり一人の意見をよく聞き話し合った。15人目標で結成したい。「軍民共用化」は税金の無駄づかい、自衛隊のために作ってやった事が誰にも明らかになった。自衛隊海外派兵反対の運動をひろめ平和委員会を作っていきたい。広い鹿行地域でも自治体ごとに平和委員会をつくってほしい。そうすれば運動が広がる。(石岡)

●平和委員会がまわりに見えてこない。地域に打って出る宣伝が大切。つどいの時だけでなく常時宣伝できるようにすべきで、それにはもっと会員相互の話し合える場が必要。仲間づくりは目的・意識的に追求しないとダメ。一定の期間みんな励まし合って仲間づくりできるよう県が提起してほしい。(ふじしろ)



渡辺 昭七さん

●1000名を越える仲間づくりを実現するには各地域で「運動と仲間づくり」を一緒に進めること。阿見では核兵器廃絶の署名活動と一緒にやっている。若い事務局員を迎え入れるに相応しい人件費をどうするかみんなで検討していかなければならない。(阿見)

<運動の基礎。地域活動を活発化させよう>

●田母神元航空幕僚長は退職金をもらってクビになったが、改憲・右翼勢力の後押しを受け全国で講演活動を行っている。百里基地誘導路が「く」の字に曲がっているのはけしからんと書いている。田母神発言の危険な真意を知らせて学習することが大切。(つくばみらい)

●自衛隊恒久派兵をなし崩しにもくろむソマリア沖への自衛隊派兵は危険極まりないものがある。日米安保条約との結び

つきで学習会をしなければならない。また、新しい戦争にマッチした戦争体験の学習会も必要。(阿見)

●5月30日、9条の会結成4周年のつどいを安斎郁夫さんを招いて300名の参加でやった。平和バスツアーには20数名参加で東京の「戦災記念館」や樋口一葉の記念館めぐりを楽し行なった。月1回のニュースも200号を突破して会員どうしのパイプに役立っている。(土浦)



近藤 輝男さん

●来年の2010年はNPT再検討会議、日米安保条約50年にあたる。安保や核兵器廃絶などの学習会を、若者の会員を増やす意味でも活発にしてもらいたい。(那珂)

●国民平和行進が6月26日、北茨城からはじまり7月7日千葉に引き継ぎます。来年5月に開催される核不拡散条約(NPO)再検討会議にむけて「核兵器のない世界を」の署名活動に取り組んでいます。県内30万筆目標です。会員1人20筆です。現在7000筆突破しています。今年の県内通し行進者は阿見町の中山熙之さんです。(県原水協)

●7月11日「9条の会・とうかい」を全国9条の会の事務局長・小森陽一さんを呼んで発足させる準備をしている。(東海)

●北茨城9条の会でも4月に名古屋高裁で自衛隊憲法違反の内容を勝ち取った訴訟弁護団事務局長の川口創弁護士の講演会を開いたが、やはり田母神問題の学習会を中心にした取り組みが大切と痛感した。(北茨城)

●憲法問題では田母神発言の学習会を大いにやる方がいい。石岡では10月3日に沢池久枝さんを呼んで講演会を開くことにしている。(石岡)

●9条の会かさまでは、5月には「おくりびと」を上映、

500名の参加があった。11月には経済同友会終身幹事の品川正治さんを読んで講演会をひらきます。年2回くらい大きなつどいを行なっています。2種類の機関紙発行と2週間に1回の事務局会議(10~15名参加)が運動の推進力になっています。(笠西)

●昨年9月に出された「軍事費削減」のチラシはよかった。旧美和村と・旧緒川村では全戸の2500軒に新聞折り込みした。今年も何回か県民に受けるチラシを作ってもらいたい。イラクの実態をもっと広めるよう県平和委員会が取り組んでももらいたい。(美和・緒川)



小室 道夫さん

<自治体当局ともっと気軽に行き来しよう>

●基地のある阿見町だけど、町の予算がつき8月に広島に中学生を送ることができるようになった。平和行政に関して自治体との協力関係を大切にしたい。平和委員会もNPO(非政府組織)に加入したらどうか。(阿見)

●潮来市でも平和のための上映会に教育委員会に後援してもらった。会場費の使用料が無料となり広報誌にも掲載され大いに宣伝された。(鹿行)

●夏の「特別旬間」では自治体に協力要請してほしい。守谷平和の会では市に後援になってもらっています。全戸配付の広報誌に掲載してもらい地域への宣伝に大いに役立ちます。私たちが当局ともっと日常的に気楽に付き合っていくことが必要に思われます。(事務局) 以上

平和かわら版

平和新聞茨城版

発行：茨城県平和委員会

〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806

E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

No.535

月3回発行

2009.6./15・25

(合併号)



2009年度役員

<代表理事>

飯村 一雄（内原・友部平和） 植田 金雄（石岡）
中山 弘子（花だいこん） 水野 秧一郎（阿見）
退任：加藤 岑生 松原 日出夫 山口 由夫。
下線は新任。

<事務局長>

伊達 郷右衛門（内原・友部）

<常任理事>

池田 征一（笠西） 稲田 明浩（石岡）
小沼 一彦（潮来市役所） 風間 道夫（鹿行）
加藤 岑生（東海） 金子 勉（さかい）
叶谷 正（ゆうき） 神長 壮行（水戸みなみ）
川又 俊水（なか） 木村 泉（鹿行）
小久保 壮一（鹿行） 近藤 輝男（土浦）
高見沢 澄（水戸西） 中山 熙之（阿見）
花沢 楓（取手） 人見 忠男（ひたちなか）
藤田 稜威雄（北茨城） 前田 清（下館）
柳岡 修二（やさと） 山口 由夫（石岡）
退任：大滝 修 谷口 誠一 中山 弘子
又川 速雄 野口 徳 柏崎 義一

<理事>

北茨城：柏木 裕美
美和・緒川：小室 道夫・高沢 喜一
日立：岩間 雅美
太田：福田 亘男・田所 みや子
大宮：小野瀬 實
東海：川崎 勝男
ひたちなか：大和田 喜市
水戸西：岩清水 昌子・小川 弘二・小瀬 信司・
松原 日出夫
水戸南：岡野 勝・神長 壮行
花だいこん：中山 弘子・菊池 浅子
はばたき：江尻 大祐
内原・友部：稲田 敏之・川井 光・小林 和栄
笠西：多崎 貞夫

鹿行：内田 泰山・関口 正司
潮来市役所：鈴木 秀行
池貝：小川 隆
石岡：川並 英二
百里：栗又 衛
土浦：斉藤 房雄
阿見：福田 正
守谷：斉藤 哲・丸町 芳夫
つくばみらい：芦田 洋治・小川 三也
荃崎：軽部 英司
竜ヶ崎：宮沢 利春
江戸崎：山口 清吉
藤代：阿部 美佐子・渡辺 昭七
取手：長谷山 世美子
下館：小林 清・前田 清
結城：前田 誠治・宮本一子
さかい：染谷 卓勇
古河：井上 忍
五霞：青木 不二子
美浦：長山 静雄

<会計監査>

椎名 定（東海） 羽鳥 茂（水戸西）

侵略された側から

じかに証言を聞くことの大事さ

（終わらないイラク戦争—シャキル医師の講演を聞いて）

土浦平和の会 小澤則光

2003年3月、米軍のイラク進攻が切迫する中、私たちは平和を願う世界の人々に連帯して東京日比谷でのイラク攻撃反対の行動に立ち上がっていました。しかし、世界中の抗議を無視して米軍がついにイラクへの侵略を始めたとき、NHKはその米軍に記者を従軍させ、侵略者に守られながら爆弾を落とす側からの映像を茶の間にあふれさせまし

た。私達はあまりにも一方的だと思い抗議の電話をしました。そしてわずか2ヵ月後、米政府は進攻の理由としていた大量破壊兵器が「イラクには無かった」と世界に告白しました。しかし、あれから6年、この間にイラクの人々にもたらされたものが何であったのか。侵略された側、イラクの人からの証言を直接聞いたことは貴重でした。

生々しい映像を示しながらシャキルさんが強調したのは、この6年間にイラクの人々が蒙った数々の苦難とその実態でした。「大量破壊兵器の存在」というでたらめな口実でブッシュが始めた戦争によって、いかにおびたしい人々が殺され、数々の苦難が降りかかっているのかを、語気を強めることなく具体的に淡々と、しかし、深い怒りを込めて話されました。

この後、シャキルさんは、シリア派、スンニ派、およびクルドの間の対立の問題についての質問に、「違いはあるが、しかし、みな同じイラク人だと思っている」と注意深く言葉を選ぶように答えられたことが印象的でした。さらに、サダム・フセインの政治と彼の評価についての問いにも、ご自身がサダム大学医学部の出身であること、サダム時代にイラクの経済が発展し、人々が概ね彼の政治に肯定的であったことなど、「独裁者」というイメージでは無かったと言われ、目を開かせられた感じでした。

NHKなどの巨大メディアは、フセイン大統領が不敵な笑い顔で長い剣を抜いてみせている戦争前の映像を何度も繰返し流しながら、一方ではクルド人に対して非道な迫害をした等と報じました。その結果、いつのまにか私達には「フセインは悪逆非道な独裁者である」というイメージが出来上がってしまいました。一つ一つの映像は事実であっても、重みづけ、選択、組み合わせ、繰返しなど様々な手法での編集報道により、視聴者の頭脳には真実とはかけ離れた虚像が出来ることがあるということではないでしょうか。

今回イラクの人からのお話を聞いて、侵略される側からの証言を直接聞くことの大切さを痛感しました。